美山こぶしの里　グループホームみやま

地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設に係わった職員達が、美山の素晴らしい自然の中で、その方の今までの暮らしを継続していって欲しいという願いの下に、「美山の地で、私らしく暮らし続けたい」という理念を掲げたが、開設後も、職員全員がこの事業所独自の理念をケアの柱として認識している。	○	独自の理念を作成してはいるが、毎年、職員全員で論議しながら作り上げているわけではないので、今後は、毎年具体的方針を論議する時に、この理念も話し合って決めて確認していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も、会議の中や日々のケアの中で、理念の内容を話し合い、具体的な支援の方法を常に模索しながら実践に繋げている。	○	当事業所が一番力を注ぎ、全ての業務の拠り所としているのが、理念の実践である。毎年、理念を具体的に取り組む内容を年度目標や方針として掲げ、職員が一丸となって取り組んでいる。昨年に引き続き、「私らしく暮らし続けたい」という理念の実践目標として、「自己決定を増やす支援」を掲げ、日々の暮らしを意識的に作り上げていただくよう職員全員で取り組んでいる。今後も「理念の共有と実践」に向けて、努力していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議の中で話したり、ご家族とは常に地域との交流等を話している。又、地域からの見学や研修の時にも、額に入れて玄関に掲げてある「美山の地で私らしく暮らしたい」という理念の内容を説明している。ご家族から、「こんなにも地域の方々にお世話になり、大切にしていただいていることが分かり、感謝しています。家族として出来ることを一緒にやっていきたい」という言葉が聞かれるほどである。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当事業所は、立地的に坂道の一番奥にあるため、気軽に立ち寄るという場所ではないが、利用者さん達と散歩に出かけた際は、近所の方と談笑したり、育てているお花のやり取りをしたりして、とても良い関係が築けている。普段、どうしても（特に冬場は）乗用車での外出が多くなるので、これからはもっと意識的にお付き合いを増やしていく機会を持ちたい。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接してデイサービスがあるので、地域活動には様々な形で参加できている。自治会にも加入しており、そちらの行事にも積極的に参加している。又、特に町内からの利用の方々は、地元との縁が切れないよう出身地域の行事にも参加していただいている。（敬老会・お墓掃除・合同法要等）		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	折にふれ、事業所が社会的資源だということを話し、地域に対して何か出来ることを模索しているがその機会は多くない。現在出来ていることは、地域の各ボランティア団体の受け入れ先なった際、認知症ケアを話したり、グループホーム事業の説明をしたりしている。	○	まだまだ地域貢献というまでには至っていないので、今後も職員と話し合い、地域の諸団体との連携で、事業所が出来ることに積極的に取り組んでいきたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価・外部評価の意義を理解している。過去2回の外部評価の改善点も、早期改善できる事項は職員全員で努力してきている。	○	改善点については確認し、改善できることはすぐ取り掛かってしてきているが、1年間通じて実行できていないこともある。例えば食事に関して、栄養士のチェックを受けることはなかなか継続出来ず、意識的に取り組む必要を感じている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会には積極的に取り組み、毎回、内容も盛りだくさんである。外部評価への取り組み姿勢や結果の報告はもちろんの事、普段のサービス内容や行事の相談等、出席者の方からのご意見をいただき、年間計画を立てたり、暮らし方の知恵等をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には毎回、行政の担当者が参加してくださっており、アドバイス等もいただいている。昨年からの要望であった「介護相談員」派遣についても、行政の方が積極的に受けとめてくださり、今年度から毎月2回、2名の介護相談員の方の派遣が開始になり、とても感謝している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、職員が十分学ぶ機会もなく今日に至っている。今後、必要な人には活用できるよう支援したいとは思っている。	○	パンフレット等を設置しているだけで、研修等にも参加できず、今後は、毎月の会議の中ででも学ぶ機会を持ち、職員全員がその知識を有し、活用できる人には支援したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について細かな知識を有してはないが、折にふれ職員間で虐待についての例を挙げ、話し合っている。虐待はあってはならないものだという認識が全員にある。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の開始については、十分説明を行ない、納得していただくように努めている。この1年7ヶ月間、利用者の入退所がないが、今後あるとしても今まで同様、丁寧な説明を行なうつもりでいる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談員2名が、毎月2回派遣されていて、利用者と馴染みの関係が出来る中で、日々の出来事の報告や意見等、話せている。又、管理者や職員とは常に何でも話せる状況であり、それらの意見や要望を運営に反映させている。例えば、夜間想定の避難訓練後の反省会の際、利用者の方々も同席し、意見や不満を述べていただき、改善を図るようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、お小遣の収支報告をしている。その際、1ヶ月間の暮らしの写真（裏面に写真の説明を記入して）や手紙を添え、近況をお知らせしている。その他にも必要時には電話や手紙で報告したり相談したりしている。面会時にも職員の異動も含め、ホームの状況をお話しするようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議の中で意見や要望を述べられたり、面会時やケアプランの見直しの際、又は介護相談員との交流の中でも意見や要望を述べられる機会は作っている。いただいたご意見や要望は運営に反映させるよう努めている。例えば運営推進会議の中で提案された地域の野菜の寄付依頼など）		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、3時間の職員会議を開催していており、その中で運営について各自発言している。年間の収支や経営状況に関すること等も話し合っている。又、個別のヒアリングにおいての発言も運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の通院の時や、家族からの外泊希望時の送迎等、あらゆる要望に柔軟に対応してきている。入院時の付き添いも職員と家族が話し合って行なっており、常に職員態勢の確保に努めている。会議の中で打ち合わせしたり、数日前に勤務を調整したりして事態のスムーズな対応に努力している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が構築できるよう、又それが持続できるよう、職員の交代は極力避けている。やむをえない場合は説明し、混乱を防ぐよう努めている。法人内の他事業所へ異動した職員とハガキでの文通をしている利用者もおられる。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の制度研修が確立されているので、各自、その研修に確実に参加している。それ以上は、自分の研修計画に添った各種研修に参加するようにしている。又、完全ではないがスーパーバイズ出来る仕組みもある。ただ、今年度は、体制上、自主的な研修参加の機会が少なかったので次年度は計画通り、確保していきたい。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームとの交流の機会は少ないのが現状である。運営推進会議の中で、見学したいという希望があり、市内の2ヶ所のグループホームへ見学したことや他事業所の勉強会に参加したことぐらいに留まっている。法人内では、グループホームの「同種協議会」という職員同士の交流の機会があり、3ヶ所のグループホームが持ち回りで会議を行ない、質の向上に努めている。	○	今後、出来れば、市内のグループホームと利用者の訪問や職員の交換研修等を行なう機会と作り、サービスの質の向上に活かしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員のストレス緩和のための具体的な取り組みは特にないが、事業所内では勤務の調整を極力行なって心身の負担軽減に努めたり、管理者が随時、ヒアリングを行なうことなどの工夫をしている。また、折にふれ、働くことの意義や職場の良さなどを話し合い、前向きに仕事に取り組めるよう、モチベーションの維持向上に努めている。	○	管理者・職員は各々の立場でストレスは違うと思われる。各自のストレスの軽減に向けてのシステム作り、例えば職員厚生会の拡大充実・互助会の発足、リフレッシュ休暇の利用等に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者・職員共に、研修時に自分の仕事のやりがいを確認したり、年2回の全職員会議の時には、業務への取り組み状況を自由に発表できるなど、向上心を持って働ける機会は設けてある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	この1年数ヶ月間は利用相談等はないけれど、今後そのようなことがあれば、それが我々の仕事の基礎なので、ご本人の思いをしっかり受け止める努力をしていきたい。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の相談や見学等が時々あるが、ご家族の不安や困りごと等をじっくり聴いて、想いや希望を受け止めるよう努めている。又、利用に至った時は、ご家族が納得されるまでグループホームにゆっくり馴染んでいただけるよう外泊等も自由にしていただいて信頼関係構築に努めている。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、現状把握に努め、本人と家族の望んでいる生活を支援するために対応している。グループホームのサービス提供内容の説明も詳しくしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたって、お試しで泊まっていただいたり、利用決定後もすぐ住み始められるのでなく、本人とご家族が納得されるまで、自宅と行き来して数日の外泊を繰り返しながら、馴染みの関係が作れるよう緩やかに住み替えをしていただいている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はグループホームケアを「共同生活」と考え、共に暮らしている関係だと思っているので、生活全般にわたり、双方学び、支え合う関係になっている。職員は、人生の大先輩からの蘊蓄ある言葉で学び、育っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは常に連携をとり、機会あるごとに、「ご本人を中心としたケアの2ヶ所（家族と職員）の担い手」ということをお伝えし、ご本人を支える2本の柱という意識で信頼関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者によっては、ご家族との関係を維持するためのケアサービスをプラン化し、常にご本人の精神的安定とご家族の安心感との支援をしている。面会の少ないご家族には、行事の折には出来るだけ参加をしていただくよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所も今までの暮らし方を大切にしたケアをしている。馴染みの理美容院利用や郷里のお墓参り、地域の行事参加等、馴染みの方々との交流を積極的に支援している。介護計画にもその項目を入れている利用者もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わり合いを大切にした暮らしを支援している。そのせいか、皆さんが共同生活者としての意識を持ってきておられるのが分かる。利用者同士の関係は細かく把握し、常に気を配っている。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	1年半以上前に亡くなられた利用者のご家族とは今も継続的にお付き合いをしている。電話で近況を話し、精神的支援をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	この項目は特に職員が力を入れて支援していることである。何事も「本人第一」と考え、意志を尊重している。自分の誕生日に好みの料理を聞くことを始め、入浴の時間や行きたい場所したいことの抽出等、常に意向を優先している。ケアプラン見直しの時も必ず聞くように、プランに反映している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの利用者について、十分な生活内容を把握しているとは言いがたい。新規開設時に、慌ただしい入所だったため、以後暮らしている中で少しずつご家族等から聞き取った内容を共有している程度の方もある。職員間でも常にここがうちの弱いところと話し合っている。	○	今年は、年度目標の中の第一に【自分ののぞく暮らしの実現】を挙げ、その具体的取り組みとして、個人の歴史をよく知るという観点で、センター方式を学び・実践することにしていた。是非、センター方式の書式の一部を使用し、これまでの暮らしの把握に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員が出勤時に必ず目を通す「伝達ノート」の設置や申し送りによって、継続的かつリアルタイムの暮らしの支援に努めている。職員全員が「一人ひとりの暮らし」というものを常に意識したケアをしている。よって9名の「その日の暮らし」は、個別性があり、また全体としてのリズムの流れがある。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画の見直し時には、本人・家族はもちろんのこと、主治医の意見も参考にしたり、作成の担当者だけでなく、職員全体の会議で各々からの意見やアイディアを収集して介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しを基本とし、その間にも状況が変化した時やご家族からの要望があった時は見直しをしている。例えば入院した時や骨折等で生活や身体状況が変わった時はすぐ対応して、その状況に合った計画を作成している。又、ご家族から体調管理について細かな要望があった際も、随時見直し、作成している。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間365日を継続して記録出来る個別ケース様式にしている。全員が必ず目を通す伝達ノートや各種の記録類を設置している。また、ケアプランと日々の記録のズレがないように、個別ケース記録に上段に、各自のケアプランを明記して、それに添った生活記録にしている。が、あと一歩押し進めて、職員側の対応等も記入できるような書式を検討している。	○	下半期に向け、引き続き、書式の検討をしていきたい。センター方式の学習は急務であり、全員が習得していく必要がある。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでの多機能性はあまり多くないが、本ににゃご家族が望まれる支援には応えている。亡くなられた方のお通夜や葬儀の相談・場所の提供・泊り込み等、又その際の食事提供などもしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の希望に応じて、地域での映画に行ったり、かやぶき美術館の催し物等に出かけたりしている。又、地域の高等学校とは実習の受け入れ・文化祭への参加等、交流によって楽しみの場が増えている。介護相談員派遣により、職員以外の人との馴染みの関係が出来、生活の幅が広がってきている。消防署には避難訓練で協力いただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを活用することはあまりないが、職員がたまに「地域ケア会議」に出席して地域の他事業所と交流することはある。利用者の方々は、隣接のデイサービスで訪問ボランティア等があれば参加されている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では、地域包括支援センターと連携していくケースはないが、今後必要があれば協働していく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望される医療機関や今までに受診されていた医院に受診していただいている。地域の診療所とは往診も含め、適切な医療が受けられるような信頼関係は出来ている。又、歯科受診に関しても同様である。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の診療所に定期的に来られる心療内科の先生に相談して、適切な診療が受けられるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の診療所の看護職員とは様々な相談や依頼ごともすべてお願いできる関係である。ターミナルケアの時は、訪問看護として大変お世話になった。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	持病や骨折等、入院時には職員が頻繁に病院を訪れ、医師や看護職員と情報交換し、オムツの購入や衣類の洗濯等も含め、小まめに行っている。利用者の方は職員が行くことで安心され、早い退院を希望される。これまで、入院中、常に病院へ電話連絡し、ご家族とも相談し1日も早い退院を促がし、実現していっている。早く退院された分、グループホームでの支援は緊張したものになるが、それでも「我が家が一番よい」と職員全員が認識しており、退院に積極的である。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来約3年間で2例のターミナルケアを経験した。2例とも、地域の診療所と密な連携をとり、ご家族とも十分話し合い、職員全員が「その時」に向けて覚悟を決め、日々納得のいく支援が出来た。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアを行なうための「看取りの指針」を作成し、本人・ご家族に説明すると共に、同意をいただいている。事業所が出来ることを明示し、職員は重度化や終末期の介護において前向きに取り組んでいる。協力病院の支援も受け、チーム態勢の中で見取りを行っている。過去に2例あるが、スムーズな看取りであった。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	開設以来そのようなケースはないが、もし今後、他所への住み替えの事例があれば、本人の納得いく形で進め、関係者間の十分な話し合いを持つ予定でいる。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録に関しては個人情報保護の取り扱いに注意している。普段のケアの部分でも、プライバシーに配慮した言葉掛けをしているが、時として、トイレ誘導時に周囲に聞こえるような言葉掛けをしていることもあるので、今以上に職員一人ひとりが意識しながら羞恥心への配慮をしていきたい。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	今年度の目標でもあり、当事業所のケアの大きな柱でもある「自分の望む暮らしの実現」の実践のため、暮らしの中で「自己決定」を最優先している。常に希望を聞いたり選択できる生活の支援をしている。的確にそのような支援を行なうためには、利用者一人ひとりの能力や想いを普段から理解しておくことも職員の役目である。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアの基本姿勢として、まず、「ご本人はどう思っておられるか聴いてみる。」と言うことを実践している。ややもすると、職員側の態勢や都合を優先しがちになるが、その場面場面で基本に立ち返り、一人ひとりのペースや希望に添って暮らせるよう支援している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容に気を遣っておられる利用者にはケアプランの中に盛り込み、自分の好みの衣服等の買物を支援している。町内から入居された方は、入居前からの馴染みの理美容室を利用されている。町外から越してこられた方は新たな美容室に通われているがすでに馴染みになりつつある。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3食ともホーム内で手作りしている。そのため、利用者と一緒に食事の準備段階から片付けまで行なっている。下ごしらえや盛り付け等、その場面場面でその方の力量で出来ることを一緒にしている。出来るだけ好みのメニューをお出しするようにしている。食事席にしても、会話が弾むよう、又、食事に集中出来るよう、それぞれの希望に添えるよう配慮している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事のおかずを見て、「ビール飲もうか。」と飲まれる方々もいらっしゃるし、食材の買い物中、自分の好みのお漬物やおつまみ等購入される方もある。職員も一人ひとりに嗜好品について常に配慮している。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中の排泄で、定時や随時の声掛けが必要な方へは適切に行なっている。立位が困難な方でも尿意・便意を知らせてくだされば必ずトイレを使用していただいている。会議でも常に、その時々の身体や精神状況に合わせた適切な排泄用具等の検討を話し合っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	開設当時より、入浴に関してはこだわりを持ったケアをしている。夏場の暑い日は随時のシャワー浴、夕方か夜の希望の時、最初か最後か等、出来るだけ希望に添うようにしている。お風呂嫌いな方には声掛けのタイミングを見計らったり、入浴の順番を考えたりして、若干職員側リードの感はあるが、一旦入っていただくと笑顔が出るので、その方に関しては、希望を聞くと言うよりも入っていただくことを優先している。15分で沸くので急な入浴希望にも応じている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の休息や昼寝等は自由にしていただいている。が、生活のリズムは大切にしているので、夜間安眠できるような支援はしている。一人ひとりの生活習慣を把握しているし、生活のリズムが出来ているので一人ひとり自分のペースで生活されている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活暦の把握は十分とはいえないが、楽しみ事や好きなことは日々の暮らしの中から理解しているので、積極的にその場面を作ったり、役割をお願いしたりしている。カラオケ、将棋、畑仕事、縫い物、食事の下ごしらえ、ぬり絵、読書、散歩、生け花等それぞれの楽しみ事を支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一名の利用者が小額のお小遣を個人的に管理されているので、買物等の支援をしている。職員は、社会性の維持という観点からもお金の大切さは感じている。	○	1名を除いて、他の方々はお金の必要性を感じておられないように思えるが、一緒に食材等の買物に出かけた際、好みのものを見つけて、「私、今お金持ってないから貸しておいてね。」とか「金持ってないけどいいんか？」等おっやる方もあるので、その2名の方については、自分で管理できる能力如何に係わらず、一度、財布の所持をお願いしても良いと考えている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な食材の買物や季節ごとの外出、日々の散歩等、外に出る機会を支援している。職員側からの働きかけだけでなく、積極的な外出希望も受けている。外出が苦手でどうしても外に出ることを拒否される方へも、ドライブだけでもとお誘いして外の空位を感じていただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	在宅からの継続行事であるお墓参りやご家族とのお花見外出、或いは、原谷こぶしの里文化祭行事で京都在住のご家族と合流して楽しまれること等、行きたい場所や普段行けない所への外出支援を積極的に行なっている。2年連続して1泊旅行へも出掛け、非日常を皆で楽しんでいる。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	精神的な不安感を感じられる時はご家族連絡をとっていただくような支援をしている。また、自ら手紙が書きたい、電話したいとおっしゃる方にはその支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族はいつでも自由に訪問され、自室や皆さんのおられるリビング等でお話されるのでお茶などお持ちしてゆっくり過ごしていただいている。また、数的には多くはないが地域の知人や親戚の方など訪ねてきてくださっている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関しては、全ての職員にとって頭から、「しないもの」「してはならないもの」という観念があるため、文言的に正しく読み込めていないし、そのための研修等も行なえていない。	○	今一度、職員全員で「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく学習していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホーム全体でどこの場所も日中、施錠していない。利用者の方は自由に畑や散歩に出かけられている。玄関・勝手口・自室の掃き出し・自室の大きな窓、デイサービスへの廊下等全部で17箇所ある外への出入り口全てに気を配っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全確保のため、常に気を配っているが、夜間に畑に出られていた方があり驚いたことがある。畑の植え物が気になっていたとのことであったが、以後、それまでにも増して、夜間の巡室には注意を払っている。プライバシーへの配慮や自由さとの裏腹に、安全の確保には最大細心の注意が必要である。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生け花をされる方には切り花用の鋏を使用していただいているし包丁や裁断ばさみ・握りばさみ等も日常的に使用されている。一人ひとりの能力や状況に応じて側に付いたり使用後の数を確認したりして、危険を回避する手立てを取りながら使い慣れた道具を使用していただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒は年間数件あり頭を痛めている。出来るだけ見守りをしているがどうしても手薄な時間帯に起こりやすくなっている。食事やおやつの時は食べることに集中されているせいか窒息・誤嚥はないが、キザミにしたり食材には柔らかいものを使用するようにしている。無断外出は開設当時は数回あったが、この1年くらいは不明ということはなくなっている。火災に関しては、毎月の夜間想定訓練と年2～3回の昼間想定訓練を行なっている。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が応急処置が出来る自信はないので、全員が年1回、救急救命の講習を受けている。が、実際の事故時に素早く適切な処置が出来るとは思えない。	○	毎年1度、救急救命の講習を受講したい。又、夜間一人の時の事故発生に備え、適切な対応が出来るよう、普段からシュミレーションをしたり、緊急連絡網の訓練を行なっておきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時に備えて普段から、夜間の訓練を行なっている。運営推進会議の中でも災害時の救助活動のことが話し合われ、近隣の協力が得られるよう、共同の訓練を行なっている。過日の災害発生訓練時には、地域の自衛消防団の方が、駆けつけてくださった。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	身体的な様態や精神面での様子をご家族に随時説明し、事業所の対応について同意を求めたり、出来る範囲のことの説明をしたりしている。例えば、退院後の生活におけるリハビリ等は特に説明申し上げ、ご家族職員双方共に、協力しながらより良い生活に向けて話し合っている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、日々細かな観察をして、それを共通の話題とし、伝達したり責任者に連絡して相談したりして、速やかな対応をしている。受診に関しても、必要と判断したら予約を待たず、職員態勢を調整し、素早く対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬に関しては、目的、量の把握、副作用等をほぼ理解して支援している。薬の内容や量が変わった時は特に様子観察して、職員間で話し合い、主治医の方へ報告・相談している。先生から「量や回数は職員の方で判断してください」と言われた処方に関しても、一人では判断せずに、皆で相談しながら行なっている。薬に関する本も常備している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便管理については特に綿密に行なっている。認知症の方は何日間排便がないか的確に伝えられないことや、スムーズな排便が運動・食べ物・水分等と関係があることも理解した上で、便秘の予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	9名全員の口腔ケアに努力をしている。ケアプランに明記している方も何名もおられる。口腔ケアをすることが当たり前と言われても、改めて、日々のケアの中の大事な項目と捉え、毎食後の歯磨きの励行や夜間の義歯の洗浄を行なっている。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定を必ず毎月行なっている。入所当時よりほとんどの方が体重増加されているので、栄養バランスや摂取量を考えてお出ししている。水分摂取に一番気をつけている。排尿量や発熱等にも関連した体調管理で支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを常備している。インフルエンザの予防接種は利用者・職員共に全員が受けている。開設以来まだ、感染症の発生がないので対応に対して自信はないが、発生の予防には極力努めたい。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	朝昼夕の3食に加え手作りおやつなども作っているので、台所は常に使用している状態であり、一斉に器具や備品の消毒等が出来ないので小まめに殺菌をしている。毎食後は食器乾燥機の使用をしている。敷地内で採れた新鮮な野菜を使用した安心・安全な食材の提供をしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームの玄関は独立しており、気兼ねなく入ってこられるようになっている。開設時、チャイムの設置も検討したが、常時職員が居る台所辺りと玄関が隣接の設計になっており、来客にはすぐ気付くだろうということで設置しなかった経過がある。北側に向いていて暗い感じがするので点灯や花で常に明るく暖かい感じにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計の段階から、日々の生活をシュミレーションし、尚且つ、美山という土地柄を考えた木造建築で、利用者にとって過ごしやすい間取りや雰囲気にしている。広すぎる感もあるが利用者9名と職員3～4名の生活では適度な空間かと思われる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のお部屋以外に、共用な空間として大小のリビングと見晴らしの良い広縁が取ってある。グループで座れる椅子やソファをあちこちに配置したり、一人でゆっくり座って外を眺められる場所もあって、思い思いに過ごせるようにしている。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、これまで使用されていた家具や小物や洋服・寝具等をお持ちいただいて、使い慣れたものの中で混乱なく過ごしていただけるようにしている。特に使い慣れたタンスやお仏壇等があることで環境の変化を和らげ、自分の住まいの中に居るという落ち着きを取り戻しておられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物自体が大きく、天井も高いし、立地的にも風通しの良いところなので、窓の開閉で十分換気出来ている。共有部分と自室との温度差に気を付けたり、冬場の暖房調整に配慮している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計時から認知症高齢者が住まう住宅ということを考えて出来るだけ安全に配慮し、且つ、自立した生活を送れるようにという願いの下で工夫した造りにしている。トイレと浴室・脱衣所以外には手すりは設置していない。必要な人に必要な場所に必要な長さの手すりを設置していくという方針にしている。実際その人の自立のために必要という手すりを何箇所か設置したり、上下の高さ調整が出来る洗面所で自力で蛇口に手が届く方もおられる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各お部屋の近くに共同ではあるが洗面所やトイレが数箇所設置してあるので、自分の使用しやすいトイレや洗面所を使用されている。自室前に名札を掛けておられる方は1名である。トイレには「便所」の札を掛け、混乱を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りは花壇や畑を作り、畑仕事が大好きな利用者職員が共同で作物を作っている。自室前の木の柵や周囲のフェンスに布団を干したり、ベランダの洗濯物の出しれを自分の役目のようにされる方もおられる。前に派手は年に数回、地域やご家族の方々とバーベキューもしている。		

美山こぶしの里　グループホームみやま

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

美山こぶしの里　グループホームみやま

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

２００５年１２月の開設以来３年間、責任者を含む職員全員が、無我夢中で走ってきた感じがしている。しかし、素晴らしい立地条件の下、外での畑死後や中での手仕事等、９名の皆さんと紡いできた年月が愛おしい。この間２名の方の終末期を支え見送り、職員は人と人との縁とチームケアの重要性を感じた歳月でもあった。今年度くらいからようやく、理念や方針の実践に取り組むことが出来るようになり、今年度の方針の具体的目標である「自己決定」に標準を当て、自分達で望む暮らしの実現をケアの中心に据え、日々の支援を行なってきた。グループホームが終の棲家と決められたのなら、職員は、その残された日々がより充実したものになるためには今までの暮らしと同様、「我が家で自分の思い通りの暮らしをしていただく」ために、自己決定できる環境を整えようと考え、努力している。職員側がリードする生活、作られた生活、誰にも当てはめられるお仕着せの生活ではなく、「自分だけの生活」を創っていただきたいと望んでいる。ただ、認知症という病を抜きにしては進めないので、そこの学習も十分したうえでの支援に努めたい。